アグリビジネス学科同窓新聞

－発　行－
秋田県南秋田郡大潟村字南2－2
秋田県立大学生物資源科学部
アグリビジネス学科
TEL　0185－45－2026㈹

印刷：㈱八郎潟印刷
TEL　018－875－4005

同窓生へのメッセージ

アグリビジネス学科長
津田　渉

同窓生の皆さん、お元気ですか。

現在、鈴木直建先生、高橋春實先生、長濱健一郎先生を引き継いで、４代目の学科長をしています津田渉です。

早いもので、アグリビジネス学科が開設されて11年目が過ぎようとしています。

11年前の教員で現在も在任しているのは、アグリビジネス学科では佐藤正志先生、津田、荒樋先生、露崎先生、近藤先生、神田先生、佐藤加寿子先生、吉田先生、永吉先生、フィールド教育研究センター（ＦＣ）では濱野先生（学科からＦＣに移られました）、今西先生の11人になりました。また、２０１７年４月からはプロジェクトの名称なども変わります。先生方の入れ替わりなど詳しいことは、各プロジェクトからのお便りに譲ります。

学科では色々なことが変わりました。その中でも学科の方向性の軌道修正が最も大きな出来事です。皆さんもご承知のように、日本の食と農を巡る状況は大きく変わり始めました。10年後の日本においては、食料の安定的で生産性の高い技術、品質や機能性を実現する技術、効率的な農業経営や流通システム技術などＩＣＴの活用を含めた先進的な農業技術やアグリビジネスを提案できる人材の育成が強く必要とされると考えられます。これには大学院でのより高度な学びと研究も重要になっています。そこで、これに対応してアグリビジネス学科の専門教育と研究力を一層充実することとしました。具体的には、従来の生産から販売までの実習も重視した活動を見直しました。また、各プロジェクトにおいては専門的な教育を深めるため、社会科学系と自然科学系教員を組み合わせて配置したプロジェクト（大規模農業経営、園芸作経営、アグリビジネスマネジメント）の教員編成を変更しました。大規模農業経営は土地利用型作物の生産技術研究（機械化、ＩＣＴ活用含む）、園芸作経営は園芸技術の研究、アグリビジネスマネジメントは地域づくりや地域ビジネス、流通、持続可能な農業等の研究を中心に行うことになりました。このように、専門性をより高めた教育を行い、研究力もアップする方向のもと、現在の教育研究が行われています。

もちろん、プロジェクトの変わらないあり方も健在です。つまり、３年生ではチームで実習や演習・実験を行い、地域現場の現実をしっかり見つめ把握し、課題を見出し、４年生のプロジェクト卒業研究で、課題の解決方策を考える力を養う、というプロジェクトのあり方はこれからも同じです。

アグリビジネス学科はこれからも、日本や秋田県の農と食のより豊かな発展に貢献できる学科として、同窓生の皆さんのお力もいただきながら、後輩たちの育成に力を注いでいきます。

同窓生の皆さんもどうぞ元気で活躍して下さい。そして、時には秋田・大潟キャンパスを訪問してみて下さい、待っていますよ!!

同窓生からの近況報告

1期　園芸作経営プロジェクト　柴田　裕基

1期生の柴田裕基と申します。今回、同窓新聞にて、お世話になった方がたに近況を報告することができる場を設けて頂き、大変嬉しく感じています。

この原稿を書いている今、私は野菜の〝セリ〟を収穫しています。就農して３年目の新米生産者として、日々頑張っています。

セリといえば、在学中の卒論テーマはセリに関するものでした。当時、フィールドセンターの圃場ではセリは作付していませんでしたが、家業の栽培上の問題点や課題が多い現状を聞いて頂き、無理をいってテーマに設定して頂いたことを今でも覚えています。その後も、吉田先生をはじめとする２プロの先生がたの熱烈ご指導を賜り、自分でいうのも何ですが、良い発表ができたと思っています。あの時に得た知識が現在の私の土台となり生涯の宝になったことは、言うまでもありません。本当にありがとうございました。

大学卒業後は県内のスーパーに勤務したのち、県の研修制度を利用して果樹試験場に研修生として入りました。リンゴの篤農家さんに１年間弟子入りするなど様々な勉強をしていたわけですが、引っ込み思案な私のカラが破れたのは、在学中に仲間と行った清新寮での悪事のおかげに違いありません。

今後は良品生産ができる栽培技術の習得に、より一層励み、無理のない経営を組み立てることが当面の目標であります。美味しいものを正直に、真面目に生産できる農業人を目指します。

みなさんに会える日を楽しみにしています。

3期　生産環境プロジェクト　佐々木達也

３期生の佐々木達也と申します。今回、同窓新聞の紙面を割いていただく機会を得ましたので、近況等を報告したいと思います。

まず、学部生時代を振り返ってみると、３，４年次のプロジェクト活動のことを最初に思い出します。ビオトープ水田という事で、無農薬で生態系に配慮した稲作に取り組みましたが、思うように行かず、水稲よりもコウキヤガラなどの水稲以外の植物が生き生きと成長し、駆除したいが量が多すぎ、お手上げ状態になっていたのを今でも思い出します。

学部卒業後は大学院へ進学しました。プロジェクト活動と卒論に対して、私は物足りなさを感じてしまい、より専門的に研究し、突き詰めてみたいと思っておりました。（先生がた、生意気なことを書いてすみません）。そこで、卒論の担当だった永吉先生に進学の相談をし、引き続き先生の元で研究をさせて頂きました。先生には日を跨ぐ迄実験に付き合って頂いたり、学会で遠征した時にお酒をご馳走してもらいながら研究や就活について相談にのって頂いたりと感謝しきれないほどお世話になりました。

現在はＪＲ東日本秋田支社に勤務し、線路の保守を行なっております。お客さまに日々安心安全に利用して頂くため、線路を検査し不具合がある場合はどのように補修すべきか考え、パートナー会社に施工を依頼という業務を行なっております。安全に関わる事ですので責任の大きい仕事ですが、私なりに頑張っているつもりです。とは言え、今はまだ入社３年の若手です。でも10年後にはそれなりの立場になっていることを期待していてください。10年後と言えば、アグリビジネス学科は開設20周年ですね。その時には、同窓新聞での記事としてではなく、同窓生の皆様とお酒を交えながら近況報告をしたいものです。

5期　生産環境プロジェクト　柿崎　杏奈

５期生の柿崎杏奈と申します。今回、同窓新聞に載せて頂く貴重な機会を得ましたので、近況等を報告したいと思います。

私は現在、社会人１年目で秋田県庁職員として勤務しており、農地・農業水利施設の災害復旧や水田畑地化工事などを担当しております。仕事をしている中でよく上司や先輩に言われるのが、農家の人の目線になって使いやすい農地をつくるようにということです。このときに思い出すのが、学部生の頃、仲間やプロジェクトの先生方と頑張ったビオトープ水田です。生産環境プロジェクトの先輩方の中でもビオトープ水田は印象に残っている人が多いのではないでしょうか。普通の稲作と違ってＪＡＳ有機栽培で、除草がかなり大変だったため（コウキヤガラは強敵でしたね）あの頃はなんでこんなことを…と思うこともありましたが、実際に農作業体験を通して感じたことが今の仕事をする上で役に立っています。また、大学院では４年次の研究テーマを深めるとともに、農業農村工学分野の勉強を永吉先生にかなり時間を割いてもらいながら教えて頂きました。最近改めて、工事の図面を見ながら内容をよく理解するためには３力（応用力学・水理学・土質力学）の勉強が重要だと感じております。理解の遅い私に根気強く丁寧に教えてくださった永吉先生には心から感謝しております。

学部生・大学院生で学んだことは私の宝物であり、ものの考え方感じ方の軸になっております。ご指導してくださった先生方、ともに過ごした仲間や先輩・後輩のみなさんには感謝の気持ちでいっぱいです。まだまだ1年目のひよっこですが、10年後、20年後胸を張っていられるよう精進していきたいです。

7期　アグリビジネスマネジメントプロジェクト　鎌田　菜摘

７期生の鎌田菜摘と申します。今回、同窓新聞に紙面を割いていただく機会を得て、大変うれしく思います。学生時代の思い出と近況について報告したいと思います。

学生時代の思い出はたくさんあって書ききれず、思い出すと苦労した卒業論文のことばかり出てきます。

秋田県のエダマメの研究がしたいと思い、アグリビジネスマネジメントプロジェクト（以下、５プロ）を選択しました。津田先生と秋田のエダマメについて考え、飲み会の際にはお通しのエダマメを食べながら議論したこともありました。卒業論文を投げ出しそうになったとき、何度も叱咤激励していただいたことに本当に感謝しております。先生がいなかったら私は卒業できなかったでしょう…。

卒業後は、横浜丸中青果株式会社に就職し、営業社員のサポートを行っています。フラワーショップでのアルバイト経験から、スーパーの生花部門のバイヤーになることも希望としてあったので、迷いましたが、青果卸業界に就職しました。卒業論文のおかげで、秋田県内外の方から顔と名前を覚えていただき仕事にも大変役立っております。夏にはたくさんエダマメを会社でいただき、幸せでした。たくさんの旬の野菜や果物に囲まれた生活はなかなか楽しいものです。台車に１００キロ以上の荷物を積んで配達したり、フォークリフトを運転したりと、男性社員に負けないようがんばっています。入社１年でまだまだ未熟な私ですが、優しい先輩や元気なお客さんに囲まれて、大変やりがいのある毎日を過ごしております。

いつか秋田のエダマメや、秋田の農業、秋田県立大学に貢献できるような人間になれるよう頑張りますので期待していてください！

次号（平成29年12月発行予定）は２・４・６・８期生からの近況報告を掲載予定です。お楽しみに！

各プロジェクトの近況

同窓新聞では毎号に各プロジェクトの近況を掲載していく予定です。
今回は創刊号なので、学科開設から約10年分まとめての近況報告となります。

◀左から：今西、保田、濱野、矢治

後列：永吉、林、酒井、佐藤正、藤井▶
中列：永澤、佐藤勝、横尾、吉田、近藤、佐藤加、李▶
前列：神田、荒樋、露﨑、津田、高橋順、鵜川、椿▶

大規模農業経営プロジェクト 01

本年度（平成28年度）は、3年生6名・4年生8名と教員4名の構成で教育研究に取り組んでいます。3年生は、現在（冬休み直前）、3年次プロジェクト報告会（平成29年1月31日）にむけて、夏期に行った水田や畑での調査結果などを取りまとめています。要旨原稿の完成度は6割程度でしょうか、まずまずの進行状況と思います。ゼミ室の壁には、今は卒業生となった皆さんの「記念写真」がたくさん貼り付けられています。「3年生がんばれ！」と言っているようです。4年生は、今、プロジェクト卒業研究に大忙しです。作物・雑草学研究室には、6つの勉強机が並んでいますが、最近になってようやくいつも学生がいるようになりました！毎日来るようにと言うと「ハイ」と元気良く答えるのですが、三日坊主な学生が少しいるようです。学生の中には嶋田先生が使っていた研究室で論文を書いている人もいます。嶋田先生は平成27年度をもって退職されたので、静かな研究室です。でも来年29年度には、農業機械・情報分野の新しい先生が赴任するので、活気が戻ることでしょう。

永澤先生（千葉先生の後任）は冬になると大学でも釣り具メーカーの防寒具を着ています。時々日本海で竿を振っており、結構釣れているようです。この間いただいたカマスは美味でした。保田先生（平成27年度から大規模農業経営プロジェクト所属）はガンバ大阪の大ファンで、大阪へ帰省するときにタイミングがあえば、スタジアムへ足を運んでいます。試合の戦術解説は秀逸で面白いです。矢治先生（小林由喜也先生の後任、現在は大規模農業経営プロジェクト所属）の教員室の入り口には段ボール製の「ついたて」があります。「出入りで足を高く上げることになるので健康によい」とのことです。社交ダンスの競技会での素敵なお写真が、研究室に飾られています。千葉先生（平成23年3月をもって退職）は、お元気です。近年は、奥様とオーストラリアに旅行に行きエアーズロックを背景にワインで乾杯したり、ペルーのマチュピチュに出かけたりしているそうです。宮入先生（今は北海道の大学に勤務されています）は、時々調査や講義で秋田に来られます。快活・飲みっぷり、それに体重も、これまで通りと思います。

大規模農業経営プロジェクトでの学びと仲間たち、そして先生方を、卒業された皆様は今どのように振り返えるのでしょうか。学生の皆さんがプロジェクトで過ごす2年間が充実し個々の能力が高まるものとなるよう、私ども教員はこれからも在学生とともに、がんばっていきます。そんな様子を、時々ホームページで見てください。

大潟村の近くに来ることがありましたら是非お寄りください。卒業された皆さんのご活躍をお祈りします。

平成28年12月冬至
露﨑　浩　記

園芸作経営プロジェクト 02

平成22年3月に1期生を送り出した時の園芸作経営プロジェクト（2プロ）の教員は、高橋春實先生、津田先生、佐藤正志先生、乳井先生、吉田先生、私（神田）の6人という大所帯でした。その後の教員の異動について記します。平成25年3月に春實先生と乳井先生が退職されました。この時には、秋田ビューホテルでお二人を囲むパーティーが開催され、たくさんの卒業生が駆けつけてくれて、おおいに盛り上がりました。現在、春實先生は山形県の実家で晴耕雨読の日々を送られています。乳井先生は井川町にお住まいで相変わらずのマイホームパパです。さて、平成25年3月には、お二人の退職に加えて、津田先生のアグリビジネスマネジメントプロジェクトへの異動もありました。このため、2プロ教員は正志・吉田・神田のたった3人にまで減少してしまい、風前の灯火のような状態になりましたが、平成27年からFCの今西先生が加わり、4人の体制で現在に至っています。

所属学生については、1～3期の頃は年によって所属者数が多かったり少なかったりと乱高下していましたが、4期以降は所属人数も安定しており、毎年8人前後となっています。今年度4年生は野菜チーム3人、花チーム3人、果樹チーム2人で、ヤマイモ、イチゴ、トマト、オーニソガラム、リンゴ、キイチゴに取り組んでいます。

卒業生の進路の状況については、あまり大きな変化はなく、JAや農業資材会社のような農業関連企業、およびスーパーやホームセンターのような小売業が多いです。目下の悩みは、未だに大学院進学者がゼロということです。学科長のコラムにもあったように、今後、学科の教育の専門性を高めていくためにも、2プロでも院生を増やさなければと焦っているところです。

最後になりましたが、今年も例年通り、5月の連休での花苗販売も松風祭での農産物販売も行います。皆さんも、大潟村や秋田市へ来る機会がありましたら、是非、お立ち寄りいただいて、後輩達を応援してもらえたら幸いです。

神田　啓臣　記

家畜資源循環農業経営プロジェクト 03

1期生8名の大所帯でスタートした〝3プロ〟ですが、月日が経つのは早いもので、卒業生を送り出すのは今年で8回目となります。最近は「家畜資源の高度利用による食肉生産技術体系の創出」というテーマで進めている3プロですが、フィールド教育研究センター（FC）と連携した資源循環型畜産は今も重要なテーマとして取り組んでいます。皆さんも悪戦苦闘した（?!）日本短角種も健在で、個体の入れ替わりは当然ありますが40頭にもなりました。

この間、3プロ教員の顔ぶれ、体制も随分と変わりました。1期生の卒業時には、江本、伊藤、濱野、横尾の4名体制でしたが、平成22年に江本先生が定年退職され、その後任として平成23年に小池先生（畜産資源循環利用学）が着任されました。平成26年には伊藤先生が定年退職され、その後任として濱野先生がFCへ異動となり、濱野先生の後任として、佐藤勝祥先生（食肉生産科学）が着任されました。ところが、平成28年に小池先生が寿退職となり、現在は、濱野、横尾、佐藤の少数精鋭体制（平均年齢は41歳！）でがんばっています。

この春で、3プロ卒業生は総勢44名になります。皆さんの進路としては、やはり畜産・飼料関係への就職の割合が大きい（約4割）のですが、他にもJA、食品系、医療系、公務員など、様々な分野に飛び立っています。また、アグリ学科の中では大学院進学者が多い（約1割）ことも3プロ卒業生の特徴になっています。3プロ卒業生の何人かとは、卒業後に会う機会があり、元気に活躍している様子を見ることができて嬉しく思っています。卒業後、会う機会がない皆さんも、秋田まで来るのはなかなか大変かもしれませんが、メールでもよいので近況を連絡いただけると有難いです。3プロ教員一同、心よりお待ちしております。

ちなみに、学科長のコラムにあるように、今春からアグリ学科のプロジェクトの名称がリニューアルします。「家畜資源利用推進プロジェクト」。短くなって、少しだけ覚えやすくなった3プロ新名称も、今後ともよろしくお願い致します…[_]m

横尾　正樹　記m

農業政策研究プロジェクト 06

学科スタート時の教員は、鈴木直健教授、長濱健一郎教授、酒井徹准教授と私（佐藤加寿子）の4名でしたが、平成21年3月に鈴木先生が定年退職され、神奈川県横浜市に転居しました。同年4月に鵜川洋樹教授が、鈴木先生の後任として着任しました。平成24年8月には李命美（ひめみ）助教が新たな教員メンバーに加わりました。平成25年4月からは学科体制の見直しのため、椿真一助教がアグリビジネスマネジメントプロジェクトから農業政策研究プロジェクトに移り、酒井先生がアグリビジネスマネジメントプロジェクトへ移りました。平成26年には長濱先生が秋田キャンパスに異動したため、翌平成27年4月に藤井吉隆准教授が後任として着任しました。平成28年10月には椿真一助教が愛媛大学に異動し、現在の5名体制となっています。

所属学生は6名から8名で推移しています。学科立ち上げの当初は、同じ学年の全員がある一定の地域を対象とする卒業研究をおこなうことにしており、これまでは湯沢市、北秋田市（2回）、潟上市などにお世話になってきましたが、県内の農業をより広く学ぶため、現在は学習対象地域の限定を秋田県全域に広げています。また、以前は3年次の演習・実習時間中に十分なまとめの時間を確保していなかったために、第6セメスター末のプロジェクト報告会直前には補習に相当の時間を充てる必要がありましたが、現在はプログラムを改善し、集中して取り組めば演習・実習の時間内で年度末のプロジェクト活動報告会の準備まで完了できるようになっています。また文献講読の時間も以前より増やしました。ここ数年は、3年生と4年生合同の夏期合宿を実施し、県外農業を学ぶ機会としています。

卒業生の就職では、他のプロジェクトと同様に地域の農業協同組合への就職も多いですが、秋田県農業協同組合中央会への就職が目立っています。秋田県庁、農業機械・資材関連企業、JRや日本航空といった交通関係、銀行、商社、生活協同組合、郵便局と就職先は多岐にわたっています。

佐藤加寿子　記

生産環境プロジェクト 04

生産環境プロジェクトでは平成22年3月に記念すべき学科第1期の卒業生を送り出しましたが、その当時のスタッフは、佐藤照男教授、端憲二教授、保田謙太郎准教授、近藤正准教授、永吉武志准教授の5人体制でした。それ以降の本プロジェクトにおけるスタッフの異動についてお知らせしたいと思います。

平成23年3月に端先生、平成26年3月には佐藤先生が退職されました。佐藤先生は、アグリビジネス学科の前身でもある農業短期大学と短期大学部の時代も含めて、本学に41年間勤務されたということもあり、秋田キャンパスで執り行われた退職記念講演会には多くの卒業生の皆さんが駆けつけてくださいました。ご退職後、佐藤先生は秋田に残られ、端先生は茨城に戻られて、それぞれの自宅で悠々自適な日々を過ごされているご様子です。さて、平成26年4月には、佐藤先生の後任として高橋順二先生が教授として着任されましたが、ほぼ同時期に保田先生が大規模農業経営プロジェクトに異動されました。平成26年4月からは学科教員のみの3人体制で再スタートを切った本プロジェクトですが、それまでのフィールド教育研究センター内に造成したビオトープ水田の活用を中心とした教育から活動範囲を広げ、秋田県内外の農地・農業水利施設ならびに希少魚類が生息する湧水池・水路群などといった実際の現場や流域全体が抱える諸課題に3年次から積極的に関われるよう軸足を移してきました。教育内容をリフレッシュしたことで卒業生の進路にも変化が出てきており、平成26年度からこれまでに国家公務員：6名、地方公務員：10名の合格者（過年度の卒業者、大学院生を含む数値）が出るなど、ここ最近は公務員志向が高まってきています。このようにスタッフ減の中でも勢いの衰えなかった本プロジェクトでしたが、昨年の11月に高橋先生が健康上の理由から退職され、現在のところは近藤・永吉の2名体制で運営している状況です。

全国各地で活躍されている卒業生の皆さんの後に続くように、これからも地域社会で信頼される専門技術者の卵を育てていきたいと思います。

近藤　正・永吉　武志　記

アグリビジネスマネジメントプロジェクト 05

現在、代表教員の津田です。「えっ、なぜ？」、という方も多いですね。通称5プロ（この名称も来年度から使わなくなり、プロジェクトの正式名称も「地域ビジネス革新」プロジェクトになります）は、6つのプロジェクトの中で最も変化の大きかったプロジェクトです。アグリの1～4期生までは、教員メンバーは荒樋先生（代表）、小林由喜也先生、長谷川先生、今西先生、椿先生、平口先生でした。その後、長谷川先生（平成23年3月）と小林先生（平成25年3月）は退職され、平口先生は女子栄養大学へ転出（平成24年3月）されました。

さて、このプロジェクトは何が専門なのかと聞かれれば、「地域活性化」と応える「応用的実践的な」プロジェクトでした。転換はアグリ5期生（全学12期生）が4年生の時でした。そのいきさつは、学科長のコラムの方に書いてあるので繰り返しませんが、このときにアグリビジネスマネジメントプロジェクトは、社会科学系教員のメンバーによる、ビジネス・流通・地域づくりを専門とするプロジェクトとなりました。これに伴って、椿先生は農業政策研究プロジェクトへ、今西先生は園芸作経営プロジェクトへ移動され、酒井先生と私（津田）が本プロジェクトのメンバーになりました。平成25年10月には林芙俊先生が助教として新たに着任され、現在は、荒樋先生、酒井先生、林先生と私の4人のメンバーです。

現在の3年生の活動は、地域づくりやグリーンツーリズム（荒樋先生）、6次産業化を中心としたビジネスや流通（津田と林先生）、持続的農業に関する生産と流通（酒井先生）のそれぞれについて、文献学習や現地調査を行います。また、地域との交流については、荒樋先生が継続されている三種町との交流、農家民宿訪問の他、新たにJA秋田おばこ青年部協和支部の皆さんとのつながりができました。きっかけは、地元の酒造会社と青年たちが協力して、地域産の酒米で作ったオリジナルのお酒を造る手伝いをアグリビジネスマネジメントプロジェクトがすることになったことでした。すでに、4年目を迎えています。また、本学客員教授の永島敏行さんが主催している東京丸の内の直売市（丸の内行幸マルシェ）での研修、オーガニックフェスタin秋田への参加など、プロジェクトの伝統である地域・現場との交流は今も盛んです。

津田　渉　記

在校生の近況

同窓新聞では毎号に在校生数名に近況を報告してもらう予定です。
「ああ、こんなことあったなあ」と学生時代を思い出していただけたら幸いです。

アグリビジネス学科 ４年生の近況

４年生　倉石　希

果樹チームの卒論風景

先輩の皆様、初めまして。私はアグリビジネス学科４年生倉石希と申します。紙面をお借りしまして、近況をご報告いたします。

私達８期生は平成27年４月に各プロジェクトに所属しました。園芸作経営プロジェクトの果樹チームに入りたての３年生の時を思い起こせば、１、２年生の頃の講義が中心の大学生活とは勝手の違う、調査と管理作業中心のプロジェクト活動に戸惑いました。しかし、指導してくださった先生や先輩方、圃場で手助けをしてくださったＦＣの職員の方々のお力添えをいただき、日々の調査やデータ整理、プロジェクト内での発表などをやり遂げることができました。また、松風祭では、各プロジェクトの企画のクイズだけでなく、自分達が生産した農産物の販売も行いました。

平成28年４月に４年生になり、今度は自分が３年生に教える番になりました。それと同時に自分の卒論の調査や就活を進めなくてはいけないことに大きな不安を感じましたが、４月下旬にスーパーでの内々定をいただき、８月には昨年度までの研究内容を園芸学会東北支部会で発表する貴重な機会を得ることもできました。

就活も終え、ほとんどの調査も終えた現在、卒論発表会に向けて集めたデータを分析中ですが、卒業された先輩方のように、自分の大学４年間で学んだことの成果を卒論を通して存分に発揮したいと思います。

アグリビジネス学科 ２年生の近況

２年生　佐藤　美帆

一昨年のアグリカフェ

先輩の皆様、初めまして。私はアグリビジネス学科２年の佐藤美帆と申します。紙面をお借りしまして、近況をご報告致します。私達10期生は平成27年４月に入学しました。入学当初、私は、地元栃木を離れた寂しさや、慣れない秋田での寮生活、勉強面に対する不安でいっぱいでした。しかし、学科や寮、バレーボール部の友達や先輩、先生方、寮監さんなど、周りの人達の温かい支えによって寂しさや不安は和らいでいきました。

１年生の思い出で一番楽しかったことは、松風祭でのアグリカフェです。先輩方の伝統を受け継ぎ、私たちの代もメイド服（チャイナ服も）を着て接客をしました。とても恥ずかしかったですが、様々な人と写真を撮ったり、交流したりすることができました。貴重な経験ができてよかったです。

さて、２年生となった現在、私の最大の悩みはプロジェクト所属です。私は高校時代に食品科学科という学科で食品加工の分野を特に学んできました。生産や流通などの他の分野について幅広く学びたくてこの大学に来ました。アグリビジネス学科で学んでいくうちに、どの分野に対しても興味・関心が高まっていきました。やりたい事や学びたい事がたくさんあり、一つのプロジェクトに絞る事が出来ずに悩んでいます。友達と話をすると、大抵の人が心を決めており、やりたい事もはっきりしていて、決めきれていない私は焦るばかりです。しかし、１月末に開催される３年生のプロジェクト報告会の時までに結論を出さなければなりません。プロジェクト配属は大きな分岐点です。アグリビジネス学科の学生は誰もが通る道なので、先輩方もこんな風に悩み、考えられたのですね。私も友達や先輩などの周りの人達に相談しながら、自分の進む道を決めたいと思います。どのプロジェクトに所属することになっても、来年、再来年は先輩方が築きあげたプロジェクト活動をしっかり引き継いでいきたいと強く思います。

最後に、先輩方は大学時代に関わった人の中で、現在でも仲良くしていたり、年に数回会う人がいますか？同学科や寮の友達、バレーボール部の仲間は、私にとって特に大切な存在なので、縁あってこの大学に入って、素敵な仲間と出会えたことに感謝し、これから先もずっと大切にしていきたいと思います。

控室の近況

秋田キャンパスでの私達の拠点「控室」は、本日もいつも通りです。変わったこともいくつかありますので、以下に挙げます。

①引っ越しました：平成28年２月に、長くにわたってアグリビジネス学科の皆から親しまれてきたあの場所（大学院棟１階）から、大学院棟２階の大講義室の隣に引っ越しました。**②名称が変わりました**：前名称は「アグリビジネス学科控室」でしたが、平成28年４月から「大潟キャンパス教員控室」に変わりました。**③職員が変わりました**：１期生卒業時に控室職員だった小林佳夏さんは、平成23年春に退職され、小笠原るみさんにバトンタッチしました。小笠原さんは４年半勤務された後、平成27年秋に退職されました。平成27年秋以降は、斉藤笑子さんが勤務されており、現在に至っています。

皆さんの中には、「先生には内緒にして」と言いながら控室職員にいろいろな相談をした人も多いことと思います。機会があれば、そんなことも思い出しながら、控室を訪ねてみてもらえたら幸いです。（場所は２階に移ったので間違えないように）

神田　啓臣　記

お知らせ

秋田県立大学同窓会 入会のご案内

秋田県立大学同窓会は、本学卒業生のネットワーク組織です。

同窓会に入会すると、同窓会員名簿等各種情報が定期的に送付されます。卒業生のネットワークつくりに活かせます。卒業生は毎年増えていきますので、仕事での繋がりにも役立つようになります。

まだ入会されていない方は、是非ご入会を検討ください。

◆入会方法

入会費１万円（終身会費）を銀行に振込んでいただきます。

入会費１万円は高く感じるかもしれませんが、終身会費です。つまり50年分を前払いしたと考えれば、１年あたり２００円相当です。

詳細は、アグリビジネス学科同窓会担当　神田啓臣 kanda@akita-pu.ac.jpまで連絡お願いします。

卒業生交流ネットワーク「秋田県立大学 風ネット」登録のお願い

風ネットはＷｅｂ上で卒業生名簿として利用できるサービスです。同窓会活動をはじめ、学部・学科や世代を越えた卒業生同士の交流の活性化を目指して運用しています。

まだ登録をお済みでない方は、この機会に是非ご登録をお願いします。

詳細は、アグリビジネス学科同窓会担当　神田啓臣 kanda@akita-pu.ac.jpまで連絡お願いします。

拡散のお願い

同窓新聞をアグリビジネス学科同窓生全員に郵送したいのですが、全員の住所を把握できていません。そこで、同窓の仲間達に同窓新聞が発行されたことを知らせてください。

同窓新聞の名称を募集します

この新聞の名称「アグリビジネス学科同窓新聞」は仮称です。正式な名称を、皆さんから募集します。奮って応募してください。

◆応募先

アグリビジネス学科同窓会担当　kanda@akita-pu.ac.jp

同窓新聞２号の予告

２号は平成29年12月発行予定です。２・４・６・８期生からの近況報告他を掲載予定です。お楽しみに。

同窓新聞２、３号は同窓生の皆さんに郵送およびＷｅｂ掲載する予定です。４号以降はＷｅｂ掲載のみとする予定ですので、ご承知置きください。

★★★ 期早見表 ★★★

自分が何期かわからない人は、自分の担任が誰だったか思い出して、確認してください。

アグリビジネス学科の期	秋田県立大学の期	入学年	担　任（学年担当）
1	8	H18（2006）	長谷川・長濱 露﨑・神田
2	9	H19（2007）	千葉・嶋田 濱野・佐藤加
3	10	H20（2008）	佐藤正・酒井 永吉・吉田
4	11	H21（2009）	荒樋・近藤 椿・平口
5	12	H22（2010）	佐藤照・鵜川 横尾・宮入
6	13	H23（2011）	津田・露﨑 小池
7	14	H24（2012）	嶋田・神田 酒井・永澤
8	15	H25（2013） （現４年）	佐藤正・吉田 永吉・李
9	16	H26（2014） （現３年）	荒樋・近藤 佐藤加・林
10	17	H27（2015） （現２年）	鵜川・横尾 椿・佐藤勝
11	18	H28（2016） （現１年）	高橋順・露﨑 神田・藤井